

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
2000(5) 5.15 (222) 5133 番
No.

「国鉄改革」とは何だったのか

「国鉄改革の完遂」なるペテン

【前号からつづく】

東労組が言う「国鉄改革の完遂」とは?

東労組が主張する「国鉄改革の完遂」とは、結局、「動労千葉や国労、鉄産労を潰せ」というだけのことだ。東労組千葉地本の書記長小林は、次のように言う。

千葉で言うと、約二〇〇〇名の他労組が存在している。二〇〇〇名がなぜ残ってしまったのか。極端に言えば、千葉には国鉄改革がなかったのではないかと、いついつに思う。国鉄改革が形式的に時間的な流れの中で行われたのではない。そんな気がしてならない。「国鉄改革の成就」からすると、親和会を設置し、国労や鉄産労やブラックユニオン、千葉労の存在を固定的に見るといふことは、企業理念である一企業一組合といふことを現場長自ら放棄するといふことだと私は思う。

これは、千葉支社経営協議会での会社幹部を前にした発言だ。つまり、会社に動労千葉や国労、鉄産労つぶしをけしかけるのが、彼らが言う「国鉄改革の完遂」の本音に他ならない。また、「政治介入を許すな、葛西の入城を許すな」などという運動も、その結論は、「葛西の手先」ブラブラ連合解体」であり、結局一切合財が、組

合つぶしに行き着く。こんな運動に駆りたてられたらたまったものではない。要するに、「国鉄改革の完遂」などというスローガンを掲げる意図は、組合つぶしの先兵となり、革マルの自己保身II会社との結託関係の維持を図ろうというだけのことだ。まさにペテンというしかない。

分割・民営化と国鉄改革法

国鉄を分割・民営化のために作られ、そして現在に至るまで、国鉄のみならず全ての労働者の権利や雇用破壊の道具として猛威をふるっているのが「国鉄改革法」だ。JR総連(旧動労)は、当時、全国の労働組合や法学者、マスコミなどがこぞってこの法律がもつ重大な問題を指摘している状況のなかで、これに全面的な承認を与えた。

この法律の最大の問題は、国鉄職員を一旦全員解雇し、JRの社員は新規採用とすること、さらには採用の人数まで法で定めたところにあった。七〇〇〇名もの国労や動労千葉の組合員を逐別して解雇(不採用)できたのは、この法律によるものであった。

決定的な裏切り!

当時は、「行政改革」の号令のもとに、電々公社(現NIT)や専売公社(日本たばこ)が民営化されたが、逐別解雇

方式がとられたのは、国鉄だけであつた。これも現在のJR総連が、これに全面的に賛同したからだったのだ。まさに卑劣な裏切り行為だ。

そして、こんなやり方が国鉄でまかり通った結果、今マスコミで「国鉄方式」と称されるような、「一旦全員解雇→逐別再雇用」や「会社分割→不採算部門のスクラップ・全員解雇」という首切り方式が当たり前のように労働者を襲うようになったのである。

その意味で、JR総連(旧動労)が果たした役割は、決定的ともいふべき裏切り行為だったのだ。

世界の労働者から笑われている!

われわれは今も、JR復帰を求める一〇四七名の解雇撤回闘争を闘いつづけている。労働者の権利は、どれほど厳しい状況のなかでも絶対に譲つてはならないものだからだ。

こうしたなかで、ILO(国際労働機構/国連の一機関)は、国鉄-JRの採用差別や、その後も日本の裁判所が労働委員会の命令を覆していることを、団結権保護を定めた国際条約に違反する行為だとする勧告を日本政府に提出した。「国鉄方式」の首切りが、世界の常識では通用しないものだということが明らかになったのである。ところがJR総連は、何とそれに抗

議するために、ジュネーブのILO本部まで役員を派遣した。自らの裏切りを隠すに行つたのだ。当然にもその抗議は、「労働者の団結権を保護しよう」という勧告をだしているのになぜ労働組合が抗議するのか。そもそも貴方たちは当事者でもないではないか」と門前払いされている。JR総連は世界の労働者のもの笑いの種となつているのが現実だ。

会社に取り入るためなら何でもやる

東労組は、「国鉄改革の完遂」を叫びながら、今また「シニア協定」の裏切りで、全ての高齢者の雇用破壊の手先になろうとしている。これも、労働省系の新聞、「週間労働ニュース」にまで、

これまで大手電機、繊維メーカーなどで発足を決めた60歳以上の再雇用制度の対象者は基本的に希望者全員で、採用試験は課されていない。その意味で、JR東日本のケースは電機などは根本的に異なる。

と書かれるようなシロモノだ。しかしそれが、東労組の宣伝では「東労組だからこそできた大成果!」となるのだ。これは、一人よがりだと言つて済ませられる問題ではない。黒を白と言いつくめる、組合員をだまそうというのである。会社や政府に取り入るためなら何でもやるのが、東労組・革マルだ。「シニア協定」の大裏切りは、国鉄分割・民営化以来の裏切りの総決算といふべきものだ。

今こそ、東労組十数年に及ぶJR総連の裏切りに決着をつけるときだ。「国鉄改革」の裏切りを徹底的に弾劾し、東労組と決別しよう。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!